

作画用語 「リアクション」の誤用について

2014年5月16日

神村 幸子

2014年現在、アニメーターが使用する「リアクション」という作画用語は、ほぼ100%が誤用である。これは「リアクション」の誤用をなくそうキャンペーンとして書かれたレポートだ。

まず

リアクションには反応、反作用といった意味しかない。芸人が「変なリアクションやな」と言うあれである。したがってこれを〔予備動作〕や〔つぶし〕の意味で使うのは、あきらかな誤用である。

大塚康生さんによると、この誤用は東映長編時代にはされていなかった。しかしいまは多くのアニメーターがリアクションを〔つぶし〕のような意味で使っている。おそらく、ある時、ある誰かからこの誤用が広まっていったのだと思われるが、なぜそのような誤用が起こったのかは謎である。

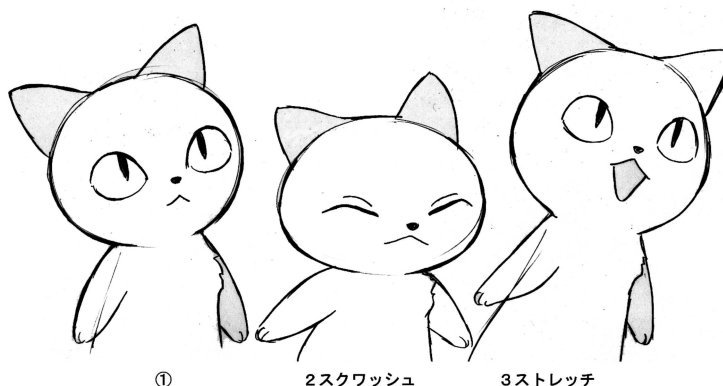
ではいまアニメーターたちが誤用している〔リアクション〕とは、ほんらいはなんと言ふべきなのか検証してみよう。

誤用その1〔スクワッシュ SQASH〕

「えっ、なに？」というようにふり向くとき、ふり向きの動きの中に軽くつぶした絵を入れることが多いと思う。このつぶした絵をリアクションと言っている場合があるが、これはどちらかといえば〔ストレッチ STRECH &スクワッシュ SQASH〕のなかのSQASHに近い。日本語で言うと〔つぶし〕である。

したがってこのタイプのものは〔リアクション〕ではなく〔つぶし〕と言いたい。

「ストレッチ&スクワッシュ」の例 ↓ ↓ ↓



誤用その2 [テイク]

全身でビックリするような大きな動きで、大きく伸び上がるまえにいったん沈み込む絵を入れると思う。この沈み込んだ絵をリアクションと言っている場合もある。しかしこの一連の動きには名称があって、それを「TAKE テイク」という。この言葉は日本では現在まったく使われていない（東映長編時代には一部で使用されていた）ので、以下「アニメーターズ サバイバルキット P285」より説明を引用する。

テイクとは先行動作からアクセント（ハッと驚くポジション）を経て、最後に静止するアクションのことである。

- 1・驚くまえの絵。
- 2・沈み込んだ絵を「ダウン」といい、先行動作の絵である。
- 3・大きく驚いて最大限伸び上がった絵を「アップ」といい、これをアクセントとしている。
- 4・静止した絵。（引用おわり）

テイクの基本パターンは上のおり。この場合の沈み込んだ絵を指して日本では「リアクション」ということがあるのだが、これはほんとうは「テイク」と言うべきである。とはいえ、いまさら日本でこれを「テイク」と言うようになるとは思えない。

したがってこのタイプのもののはせめて「沈み込んだ絵」と言いたい。

誤用その3 [アンチ Antic (Anticipation)]

もっとも多い誤用がこれだと思われる。つまり予備動作である。目的の動きをする前の、準備的な動き。先行動作ともいう。

走り出す前に一瞬からだ沈み込む動きなどがこれに当たる。これはすなおに「予備動作」と言うべきだろう。

以上のように、現状、アニメーターは、なんでもかんでも「リアクション」と言っているが、この誤用は手描き商業アニメーション業界でしか通用しない。特に若手アニメーターは、3DCGアニメーションや、海外でアニメーターをする場合も視野に入れ、日本語で正しい作画用語を身につけよう。

©Kamimura Sachiko 2014